

市立
小諸高原美術館・
白鳥映雪館



映雪の魅力にあらためて迫る
白鳥映雪作品ギャラリートーク

—伊東深水と白鳥映雪の師弟の絆—

日本芸術院会員で小諸市滝原出身の日本画家・白鳥映雪。その作品の制作背景や技法などについて、わかりやすく解説し、あらためて映雪作品の魅力に迫る「白鳥映雪作品ギャラリートーク」をシリーズで開催します。

第1回目は、「立秋」。疎開先の小諸を去った師伊東深水のもとで制作された日本の復興を夕暮れのビルの屋上から眺める三人の女性に託して描いた映雪の代表作です。伊東深水との師弟の絆をはじめ、より深く白鳥映雪の世界にふれられる良い機会です。ぜひお出かけください。



「立秋」

- ▶日時 6月26日(土) 13:30 ~ 15:00
- ▶会場 市立小諸高原美術館・白鳥映雪館
白鳥映雪特別展示室
- ▶参加費 通常の観覧料
- ▶講師 舟田 均 (白鳥映雪研究者)
白鳥 純司 (小諸高原美術館・白鳥映雪館学芸員)

※令和3年度は、下記3作品を紹介・解説します。

- ①「立秋」6/26(土)
- ②「追想(琉球ようどれ廟)」8/21(土)
- ③「菊慈童」11/20(土)

☎ 小諸高原美術館・白鳥映雪館 ☎ 26-2070

昆虫写真家

海野和男の小諸日記



チョウを呼ぶムシトリナデシコ

ムシトリナデシコは園芸種として江戸時代には人気があった。小野小町の名前をとってコマチソウとも呼ばれた。もともとフランス南部などの比較的乾燥した場所の植物だ。ムシトリナデシコの名の由来は、花の付け根に粘液があり、アリなどがくっつくことがあるからだが、食虫植物というわけではない。この花はチョウを非常に良く呼ぶ花だ。6月は庭にこの花があるだけで、いつもチョウがあふれている。

ムシトリナデシコは道路端や、千曲川の河川敷などに結構あるが、種は売っていないので、道ばたから採取するしかない。種を取るなら7月中旬頃が良いかなと思う。鞘の中にとっても小さな種がたくさん入っていて、逆さまにするだけで種が取れる。庭のムシトリナデシコも高原美術館に細々と咲いていたムシトリナデシコから採取したのがはじまりだ。



6月の庭にはムシトリナデシコが咲き乱れる

隣地との境界を明確にして
お互いすっきりとしましょう!

土地の境界 / 土地の境界には筆ごとの範囲を公的に区分する「筆界」と、所有権の及ぶ範囲を区分する「所有権界」があります。一般にはこの両者は一致するものですが、所有権界は当事者間の合意や時効取得などにより変動することがあり、筆界と相違する場合があります。

最新のGPS(衛星からの)測量技術で正確さを競っています。

お気軽に電話ください
TEL0267-22-9491 土地家屋調査士 川上 陽次郎
小諸市六供1-3-17 丸山写真館様3軒2号 (株)ユーアール測量設計代表

動画製作 お任せください!

4K・8K対応 空撮ドローン対応

- プロモーションPR ●商品サービス紹介 ●WEB動画
- 会社・学校等施設紹介 ●ブランディング ●テレビCM
- デジタルサイネージ ●マニュアルHow to ●インバウンド向け

お見積り・ご相談 無料 (サンプル動画はこちらからご覧ください)

A/C 地域情報&広告 株式会社 アイク 小諸市御幸町2-12-1
TEL.0267-23-4474